1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU 増刊通巻、第4986号

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）　1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 12 月 6 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4986 号

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU 増刊通巻、第4986号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます！

潮騒JTC9周年フォーラムの第3部は、地元に受け継がれている「鹿島灘太鼓」の演舞で盛り上がりました。2部のゲストスピーカーによる講話が熱を帯びて時間が押してしまい、会場を後にした方が多かったのが残念でした。潮騒和太鼓メンバーは8カ月ほどの取り組みでしたが、主宰者の熱心な指導もあり、何とか形になりました。第1部のエイサー演舞も首都圏ダルクの友情応援で圧巻の舞台でしたが、和太鼓は潮騒太鼓のもう一つの顔となりそうです。来年の10周年フォーラムでは、しっかりと練習を積んでエイサーと肩を並べる存在となるでしょう。（6～9 ページ）

2014
11-12
合併号

潮騒食堂で アディクトの就労支援に 取り組みます。

いつだったか日本ダルク代表の近藤恒夫さんが「もし俺に計画性があったら、ダルクなんかやらなかったよ」と話してくれたことがあります。今の私は、その言葉の意味がよく分かります。もともと依存症の世界は理屈や理論では割り切れません。「今日だけ」を頼りに生き、明日はどうなるか誰にも分からない世界です。近藤さんがダルクをつくった時、「ヤク中に回復なんてあり得ない」とアル中の仲間にさえ止められたといいます。でも、近藤さんは周囲への反発をエネルギーに替えて、日本にダルクを定着させました。その生き方は私の手本でもあります。後年、近藤さんは「自分の回復のためにはダルクが必要だった」と回顧しています。世間の“常識”に従っていたら、この国にダルクは誕生しませんでした。無謀とも思える近藤さんの「無計画」な反骨精神が、この国の依存症の歴史に風穴を開けたのです。

確かにアディクト（依存症者）は数字の把握や計算が苦手です。依存症によってすっかり自己中心の生き方を身に付けてしまい、明日はどうなるか分からない世界を渡り歩いてきた人たちですから、世間から見れば“おもてなし”が基本となる客商売（サービス業）には向かないのかもしれません。今回も、就労支援で取り組む潮騒食堂「おらげのかまど」に周囲の反応は冷ややかでした—。「売上をごまかしてトンズラするか、隠れて酒を飲んで潰れるのがオチさ」「ささいなことでお客とトラブルを起こし、変なうわさが広まって早晩閉店に追い込まれるよ」「不景気で飲食店があちこちで潰れているのに、ヤク中やアル中の店なんか成功する訳がない」「結局は仲間を恨んで終わり。悪いことは言わない、投資した分だけ無駄だからやめた方がいい」…。

でも、アディクトの当事者である私は、最後のところで「違う！」と叫びます。依存症という厄介で特殊な病気は、人間を根こそぎ人非人（人でなし）にしてしまいます。ですから、裏切りや騙し騙される関係の彼方に立たなければ成立しない世界なのです。そうした失敗を認め合う地平から私たちの回復は始まります。社会がアディクトを受け入れ、緩やかな競争が可能な就労条件や環境が整うならば、ヤク中やアル中でも仕事はできます。私たちは３年間に及ぶ「潮騒ファイザープロジェクト」で、そのことを実践・実証してきました。この手ごたえをプロジェクトの発展形としてチャレンジするのが「おらげのかまど」です。過去に建築やインテリア、塗装、左官、水道工事などに従事してきた入寮者仲間が店舗の内外装工事を手掛けました。厨房を担当するのは全員が飲食店で働いてきたメンバーです。フロアには女性専用施設（シェルター）のメンバーが加わりました。今後、地域の皆様のお引き立てを頂きながら、肩肘張らず地道に依存症の回復を目指して、地元に受け入れられる食堂を目指します。是非一度ご来店ください。

最後になりますが、今年も依存症の回復活動について潮騒JTC支援者の皆様には大変にお世話になりました。どうか、よいお年をお迎えください。

（センター長 栗原 豊）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

既報の通り、NPO法人・潮騒ジョブトレーニングセンターは11月12日、空き店舗を大幅に改装して念願だった潮騒食堂「おらげのかまど」をオープンしました。依存症者の職業訓練・就労支援のプログラム開発を目指す「潮騒ファイザープロジェクト」の一環としての取り組みです。場所は鹿嶋市の中心部、市役所前の一等地。隣り合ってカレー専門店があり、２階にはレストランや夜間営業のスナックがある複合飲食店舗の一角（１階）です。店舗の裏手に広いスペースの専用駐車場も確保しました。当面はランチタイムに営業するセルフ形式の潮騒食堂（定食屋）に加え、役所などでニーズの高い弁当販売・配達も手掛けます。また、隣接して潮騒農場で収穫した野菜などの直売所も併設しました。

開店した潮騒食堂は、最近増えているセルフサービスの定食屋です。調理・盛りつけ済みのおかず（総菜）を一皿ごとに選んで取るセルフサービス形態の店舗（いわゆる「一膳めし屋」形式の大衆食堂）です。潮騒農場で採れた新鮮野菜を食材に生かした“おふくろの味”が特徴で、店の「売り」は健康食野菜としての青パパイヤ料理です。青パパイヤは栄養価が高く、美容にも効果があります。サラダ、煮物、おしんこなど豊富なメニュー（一品料理の数々）を、ランチタイムに合わせて取り揃えました。

利用方法は、来店したお客さんがまずトレーを受け取り、値段ごとに順番に並んでいる単品のおかずの中から自分の好きなものを選んで組み合わせ、ご飯と汁物を加えてトレーに乗せて各自精算します。これだと待ち時間がなく、ヘルシーで温かい家庭料理が食べられます。定食によってはワンコイン（500円）の低価格でも食べられるように工夫しました。独自開発の潮騒ラーメン(500円)もお勧めです。長く居酒屋で腕を磨いた若い店長が、農場で採れた野菜類や市場で仕入れた食材でその日のメニューを決め、料理の腕を振るいます。

今後、失敗を認め合う緩やかな競争と関係の中で、依存症に理解ある就労環境が整えばヤク中やアル中でも仕事ができることを実証していきます。

かまどプレオープンイベント開く
支援者らが試食会で料理に舌鼓

潮騒 JTC の直営食堂「おらげのかまど」と農産物直売所のプレオープンイベント（関係者による試食会）が11月11日、開店を翌日に控えた鹿嶋市鉢形の同店で開かれました。地元の支援者や潮騒家族会の皆さんら延べ約40人以上が招待参加、日本ダルク代表の近藤恒夫さんや横浜ダルク代表の坪倉洋一さんらもお祝いに駆け付けてくれました。両ダルクや協力事業者からは立派なお祝いの花輪も頂戴し、文字通り開店に花を添えて頂きました。

この日は、まず参加者の皆さんに潮騒農場で採れた新鮮野菜を食材にした、自分の好きなメニューの品々を実際にセルフ形式でトレーに載せてもらい、素材の良さを味わってもらいました。珍しい青パパイヤ料理を初めて体験試食する方も多く「思っていたよりもくせがない」「煮物もやわらかく食べやすい」と評判でした。「おかずでは煮魚がとてもおいしかった」という声も皆さんから聞かれました。

食事をしながら簡素な開所式に移り、初めに栗原センター長が「私が長年温めてきた念願の食堂を開店できた。ダルクのテストケースでもあるので、ぜひ成功させたい」と挨拶。担当者からは事業概要や潮騒農場との連携について説明があり、近藤さんや坪倉さんからも祝辞を述べていただきました。かまど運営スタッフ（厨房とフロアメンバー）や店舗改装工事に携わった職人メンバーが紹介され、最後にみんなで乾杯してオープンを祝いました。運営責任者で店長のハルさんには、わざわざ足を運んでくれた娘さんから花束が贈られました。ハルさんは「みんなで頑張って食堂を軌道に乗せながら、依存症の回復に努めたい」と決意を述べてくれました。

▲ お祝いにかけつけたハルさんの娘さんと店長のハルさん

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

潮騒就労支援飲食店事業「おらげのかまど」事業概要

●事業目的：　潮騒 JTC が取り組む職業訓練・就労支援活動の一環として飲食店事業プログラムを導入し、薬物・アルコール・ギャンブル依存症者の社会復帰を促す。

●事業概要：　潮騒JTCで回復活動に取り組む入寮者の職業訓練・就労支援活動の一環として、地域の受け皿となる飲食店を鹿嶋市中心部に開店し、薬物・アルコール・ギャンブル依存症者の自助努力により経営の安定化を図る。同時に店舗運営にかかわる参加メンバーのキャリア＆スキルアップを図り、「しおさいアディクション・ビレッジ（潮騒依存症村）」構想の関連事業として鹿嶋地域での定着を図る。

●事業主体：　特定非営利活動法人・潮騒ジョブトレーニングセンター

●事業形態：　障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）として取り組む。

●事業効果：　①飲食店経営を目指す潮騒 JTC 入寮者が自立できるように支援する
②入寮者の過去のキャリアを生かし、飲食店で働く希望者の研修の場とする
③潮騒農場で生産したコシヒカリや野菜等を食材として有効利用する
④収益を従業員に報酬として還元し、社会復帰への動機付けを図る
⑤地域社会に回復者の働く姿を示し、依存症への理解を深めてもらう
⑥飲食店経営のノウハウや調理技術、顧客サービス等を現場実践で学ぶ

●店舗場所：　鹿嶋市鉢形の鹿嶋市役所前の複合店舗一階の一角（空き店舗をほぼ全面改装して有効利用）、店舗面積約 80 平方㍍、席数は約 30 席。

●特　　長：　鹿嶋市内に点在する潮騒農場と連携し、農場で収穫した新鮮野菜を食材に生かし、主にヘルシーな家庭料理に工夫を凝らしたメニューを提供する。ニーズの多いラーメンも提供する。目玉は茨城県が露地栽培北限の珍しい青パパイヤ料理の数々。

●サービス形態：　セルフ形式の一膳飯大衆食堂。利用客が自分の好きな一品料理を組み合わせて選び、料金を支払う。ワンコイン（500 円）の低価格でも食べられるように工夫する。

●店舗形態：　潮騒入寮者や市役所職員、近所のサラリーマンなどを対象にした昼食ランチの提供。弁当の販売、配達サービスも手掛ける（個数＆近隣地域限定）。食堂に隣り合って潮騒農場野菜直売所を設け、ここで弁当販売を行う。

●スタッフ：　厨房を担当するのは全員が飲食店で働いてきたメンバー３人（店長・坂口政治）。地元の食堂経験者が応援に加わる。フロアには女性専用施設（シェルター）のメンバーが参加する。

●場　　所：　鹿嶋市鉢形 1084（電話 0299-85-4031）
鹿嶋市役所前、店舗裏に専用駐車場あり。

●営業時間：　当面はランチタイム（午前 11 時～午後 2 時）に限定
運営が軌道に乗れば
夜の部（午後 5 時～午後 8 時）も挑戦する。

●定 休 日：　日曜日

茨城新聞に掲載されました▶

鹿行

薬物やギャンブル　依存症脱却へ

育てた野菜で食堂開店

鹿嶋のNPO 就労支援、直売所も

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

潮騒JTC 9周年フォーラム

400人が参加

潮騒ジョブトレーニングセンターは12月7日、地元の鹿嶋勤労文化会館（鹿嶋市宮中）で9周年フォーラムを開き、延べ400人を超える参加者がありました。今回のフォーラムは太鼓祭りと、潮騒が独自に取り組む就労支援プロジェクトの報告を柱に、3部構成（首都圏ダルク連合の応援によるエイサー演舞、潮騒ファイザープロジェクトフォーラム、和太鼓「鹿島灘太鼓」の演舞）の多彩な内容で盛り上がり、来年の10周年への橋渡しとなりました。フォーラムの様子は同日夕方のNHK茨城ニュースでも報道され、依存症回復支援民間施設の小さなイベントにもかかわらず、反響がありました。

◆首都圏ダルク連合のエイサー隊が友情応援

第1部のエイサー演舞では、地元の祭りイベントや老人ホームから慰問の出演依頼を頂けるまでに成長した潮騒JTCのエイサー隊が単独の舞台を披露した後、昨年に引き続き首都圏の千葉ダルクや川崎ダルク、相模原ダルク、東京・渋谷ダルクのエイサーメンバーが友情応援で参加。総勢約50人がカラフルなエイサー衣装に身を包み、全体練習の時間がない中で調和の取れた演舞を実現しました。合間にはエイサーには欠かせない“ちょんだら”と呼ばれる道化役の3人が登場し、掛け合い漫才のようなやりとりで会場の笑いを誘いました。潮騒のエイサー隊と和太鼓隊が舞台上で“ドッキング”する場面もあり、他では見られないユニークな演出に会場から大きな拍手をいただきました。

第2部では冒頭の開会行事で、茨城県潮来保健所の大森葉子氏（保健指導部長）、水戸保護観察所の小出有二氏（統括保護観察官）、鹿嶋市市民福祉部長の石川克己氏、メッセージ活動を受け入れてもらっている秋元病院院長の安野勇氏、初期からの地元支援者で鹿嶋市議の立原弘一氏、潮騒農場の指導者を務めて頂いている鹿嶋市議会議長の根崎彰氏から来賓挨拶がありました。

◆農業隊メンバーが3年間の成果を報告

引き続き、潮騒ファイザープロジェクトの報告に移り、農業隊サブリーダーのユウさんがパワーポイントの映像データを使い、3年間の取り組みと成果を発表。潮騒農業を通して回復の歩みを続ける自分の姿をダブらせながら、「アル中やヤク中でも就労環境が整えば仕事ができる。潮騒のファイザープロジェクトはそれを実証している」と力説しました。体験発表に立った農業隊メンバーのリョフさんも「エイサーと農業に参加し、クリーン1年を達成している」と胸を張りました。潮騒ファイザープロジェクト推進副委員長で横浜ダルク代表の坪倉洋一さんは3年間の活動を講評し、「助成期間を終えても潮騒の就労支援を発展させてほしい」と期待を寄せました。日本ダルク代表の近藤恒夫さんが「ダルクと就労支援」をテーマに講演し、途中からはダルクで回復の歩みをスタートさせているマーシー（田代まさし）さんにバトンを手渡しました。予期せぬスペシャルゲストの登場で会場が和らぎ、貴重なメッセージに温かい拍手が送られました。

◆お囃子や創作の幅広い構成で舞台盛り上げ

第3部の和太鼓「潮騒・鹿島灘太鼓」の演舞では、地元で受け継がれている和太鼓文化の神髄を示すように、勇壮で重厚な舞台が繰り広げられました。潮騒の和太鼓隊は今年3月からの取り組みでしたが、創設者の島田正之さん夫妻の熱心な指導を受け、人前で演奏できるまでに何とか形になりました。これに若いメンバーを中心とした灘太鼓本隊メンバーのハイレベルで熟達した演奏が加わり、基本のお囃子だけでなく島田さんのオリジナルな創作作品も交えて大小の和太鼓を駆使した演奏・演舞が披露され、参加者に和太鼓の魅力を楽しんでもらいました。フォーラムは最後に栗原豊センター長が謝辞を述べ、閉会しました。（み）

来年の10周年フォーラムは11月15日と決定！

来年のことを言うと鬼が笑うかもしれませんが、節目となる10周年フォーラムは11月15日（日）に開催することが決まりました。地元の祭りイベントなどに配慮して12月第1週目の日曜日に設定したかったのですが、会場に予定する鹿嶋勤労文化会館が来年は鹿嶋市制20周年関連行事で使えないため、この日程となりました。ご了承ください。できれば今からスケジュールに入れてもらえればありがたいです。

「～栗原豊センター長フォーラム謝辞～」

9周年フォーラムは太鼓演舞と就労支援報告を柱にしたフォーラムとなりました。潮騒エイサーは地元の祭りや老人ホーム等から慰問演舞の依頼が多くなり、とても有難いことですが、私たちはイベント興行が仕事ではありません。依存症の克服を目指す日々の地道な回復活動が基本です。あくまでエイサーはミーティングを補佐する取り組みだということを肝に銘じます。一方、潮騒ファイザープロジェクトでは、この3年間ファイザー製薬の助成を受けて依存症者の就労に向けた「受け皿」づくりに努めました。お陰様で潮騒農業は順調に発展しています。分かったことは、農業の基本は土づくりにあり、自然の恵みである農作物を育てることは、依存症の回復活動に通じるということです。薬物やアルコールに依存して反自然の極みだった依存症者が、生き物の原点である自然に同調して癒されていくという不思議な導きに、スピリチュアルな目覚めを体験しています。農業を通して仲間たちが命の尊厳を実感し、シンプルに謙虚に生きる方向にシフトしていく姿はプロジェクトの大きな成果です。

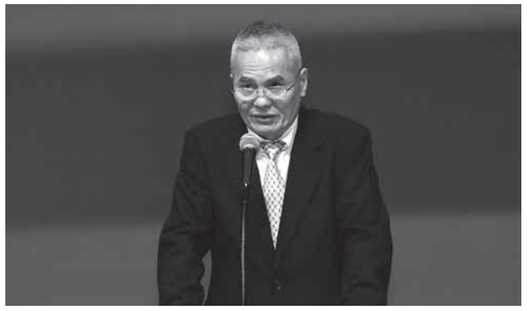
とはいえ、潮騒農業はこれからが正念場です。もとより私たち依存症者は社会の人たちの5、6割程度の力でしか仕事ができません。物事を持続させるのも苦手です。でも、競争の激しい社会とは一線を画して、失敗を認め合いながら、「半就労・半福祉」の環境なら仕事ができます。

潮騒JTC9周年フォーラム

潮騒ではマンパワーを生かしながら、昔の「お百姓さん」のように、できるだけ自分たちの力で必要なものをつくり出していこうと考えています。その実践として今回、潮騒農場と連携した食堂「おらげのかまど」を開店し、農産物直売所も設置しました。潮騒ファイザープロジェクトの助成期間は終了しますが、次への展開へと事業が飛躍しつつあります。

この国では、ダルク30年の歩みによって「依存症」という言葉が少しずつ社会に知られるようになりました。その一方で、残念ながら危険ドラックの乱用による事件事故が後を絶たず、大きな社会問題となっています。連日メディアで報道され、非行・犯罪として取り締まりの動きが加速していますが、薬物汚染から社会を防衛することは国の重大な責務であることは言うまでもありません。しかし、それでも危険ドラックが絡む事件事故は減る気配がなく、より巧妙な手口で地下に潜行していく傾向が伺えます。そこには司法アプローチだけでは解決できない依存症の、本質的で困難な問題が横たわっています。危険ドラックに対しても他の薬物問題と同じように、私たちは当事者として、まず依存症という病気の認識に立って医療と福祉の対応を求めます。依存薬物の違いはあっても、未だダルクにつながらずに苦しんでいる仲間たちに救いの手を差し伸べられたら、と切に思います。本日は9周年フォーラムにご参加いただき、ありがとうございました。

▲ 横浜ダルク施設長トムさんと潮騒センター長ゆたか



▲ 謝辞を述べるセンター長

仲間の感想文 リョウ

■フォーラムに対する仲間の熱意が僕を変えた

9周年フォーラムが無事終わりました。僕は今年6月に潮騒に繋がったので初めてのフォーラムで、しかもエイサーを始めたのが8月、当初はフォーラムまでに間に合うか不安でした。でも、初めて仲間のエイサーを見て、それまで太鼓に興味がなかった僕が凄い衝撃を受け、どっぷりエイサーの魅力にハマってしまいました。そうは言っても12月のフォーラムまでは3カ月余り、最初は2、3曲覚えればいいかなって思っていましたが、練習を重ねていくうちに仲間のフォーラムに対する想いや熱意が僕を変えていきました。僕はあまり感情が表に出ないというか、出すのが苦手な性格なのですが、この時メラメラとヤル気がみなぎり、「仲間と同じ舞台に立ちたい」「一緒に演舞したい」と思いました。フォーラムの演目は6曲、今まで以上に練習に熱を入れ、自主練習もほぼ毎日行いました。結果、技術はともかく6曲を覚えることができました。正直ギリギリでした。これも仲間が僕に付き合って教えてくれたおかげです。仲間も自分の練習もしなければいけないのに、本当に感謝です。

こうして本番を迎えたわけですが、正直なところ演舞に関しては満足のいく出来ではありませんでした。目の前に身内がたくさん来ていたことで、ド緊張してしまいミスを連発！「俺ハートが弱ぇえええ～」と思いました。まだまだ練習が足りないと痛感させられました。それでも演舞中はもの凄く楽しく、他のダルクエイサー隊との演舞も大人数で叩くとこんなに迫力あるんだ、と感じました。終わった後はなんとも言えない達成感でした。舞台の袖でみんなとハグしてる時、ウルウルきました。暗かったのでみんなにはバレていないとおもいますが…（笑）。こうして無事フォーラムを終え感無量です。エイサーの仲間と同じ舞台に立てたこと、一緒に演舞できたこと、僕がこの短期間で覚えられたのも、みんなのサポートがあったからです。仲間にありがとうと言いたいです。

ちなみに僕はギャンブル依存症で、10代の頃からパチンコ、スロットにハマり一生やめられないと思っていました。現在も完璧にやめられてはいませんが、潮騒に繋がって止まっていることは事実です。だから、これを読んでいる全てのギャンブル依存症者に伝えたいです。「ギャンブルに替わる趣味を見つければ止まる」と。僕は潮騒に来て太鼓と出合うまで趣味はパチンコ、スロットの毎日でした。それが不思議な導きですが、太鼓（エイサー）と出合ったことで趣味は太鼓に変わり、ギャンブルに明け暮れていた生活が一変しました。時間がかかってもいいから「俺にはこれだ！」という趣味を、一つでもいいので見つけていければギャンブル依存脱却への道は開けていくと思います。最後にひとこと言わせてください……エイサー最高！！（リョウ）

仲間の感想文 あやめ

■潮騒での経験は自分の回復・成長につながる

潮騒JTC9周年フォーラムの第3部で、私は和太鼓「鹿島灘太鼓」の演奏をしました。少し緊張しましたが、楽しく演奏することができました。4月から約8カ月間練習を重ね、仲間と一丸となってやってきて、楽しかったこと苦しかったこと、いろんなことがありましたが、潮騒JTCでの経験は自分の成長につながることがたくさんありました。とても感謝しています。

私は個人的な事情から12月で、社会復帰に向けての準備などで潮騒JTCを退寮します。社会に出る前に、鹿嶋灘太鼓の島田先生ご夫妻のように社会でしっかりと地に足を付けた生活を営み、地域で信頼されるお仕事や大変に意義のある社会活動をされている方々と直接お話ができたり、社会に出て日常生活で必要となる常識や礼儀作法、人との付き合い、思いやりなどいろいろなことを教えていただく機会に恵まれ、本当に良かったです。

ですが、退寮といっても私の病気（依存症）の治療と回復に終わりはありません。依存症は一生治らない病気ですので、今でもふと思い出したように私の狂気の部分が頭をもたげることがあります。イライラした時や疲れた時には（クスリを）使いたいという欲求が出てきます。この厄介な一生治らない病気と生涯にわたって付き合っていかなければならないのか…、と思うと心が折れそうになります。でも、社会に戻っても必ず自助グループのミーティングに通い、潮騒で学んだ12ステップを駆使して生活していこうと思います。潮騒の仲間たちに勇気づけられたことや、受けたご恩を忘れずに、新たな人生を歩んでいく決意です。社会に出ても頑張ります。（あやめ）

▲ 雀躍りを舞うあやめさん

マーシー（田代まさし）さんが“サプライズ”メッセージ

“サプライズゲスト”としてメッセージしてくれたマーシーさんのユーモアあふれる講話には、会場から拍手と歓声、笑いが絶えませんでした。日本ダルクの近藤恒夫さんが講演していた際に「田代まさしさんのそっくりさんです」と紹介。登壇したマーシーさんが「依存症のマーシーです。おそらく日本一有名なヤク中です。（チャゲ&アスカの）アスカより先輩です」と切り出し、「僕も執行猶予をもらったときに『やめられる』と思ったが、クスリの前では無力でした」と振り返りました。その上で「アスカもまだ本当の“底つき”を経験していないと思う。依存症と自覚しない限り、また彼はやってしまうと思いますよ」と、自身の経験を踏まえて回復の難しさと試練を力説しました。

3年6カ月服役した刑務所での生活は「罪を改心させる場所でも、薬物依存を解決させてくれる場所でもなかった」「後悔はしたけど反省はしなかった。むしろ『今度はうまくやろう』と思った。依存症者の考えるのはそんなもんです」と、率直な気持ちを話しました。一方で「難しいことを考えないで、下らないことを考えていれば時間が早く過ぎると思った」として、自分で考えたというネタの一部を披露し、現役時代を彷彿とさせる巧みな話芸？で会場の笑いを誘っていました。日本ダルクに繋がった際には「出所祝いに『しゃぶしゃぶ』をごちそうになった」「ダルクのスタッフに焼肉をごちそうになったが『あぶり』だった」など、仲間たちからダルクならではの歓迎を受けたことを紹介しました。

その後、マーシーさんは「近藤さんと一緒に回るうちに『俺の居場所がここにあるのでは』と思った」と話し、地道に回復の歩みをスタートさせました。広島ダルクフォーラムに行った際にお好み焼き店の従業員からサインを頼まれたエピソードに触れ、「事件を起こして（飾ってあった）サインを外す人はいっぱいいた。サインをもらってくれることがこんなにありがたいとは…」と、失敗しても見捨てられなかったことに深く感謝していました。「僕の夢は芸能人専用のダルクを作ること」と締めくくり、最後までユーモアあふれるサービス精神を忘れませんでした。人知れず外圧は強いでしょうが、無名のアディクトの一人として地道に回復してほしいなあ、と思います。

今月のイベント参加報告

こんなイベントに参加しました、というご報告。

秋季イベントで 100 円焼きそばを販売し地元に恩返し！

て～ら祭では鹿島灘太鼓と鹿嶋琉球太鼓の合同演舞を初披露

潮騒 JTC はこのほど、地元で開かれた秋季イベント（第 24 回鹿嶋まつり、第８回て～ら祭）に模擬店や潮騒エイサー（鹿嶋琉球太鼓）演舞、潮騒鹿島灘太鼓の演舞で参加しました。鹿嶋まつり（会場・カシマスポーツセンターとその周辺、11 月 1 日）は鹿嶋市最大の秋季市民イベントで、看板となった No.1 B 級グルメ選手権やキャラクターショー、のど自慢大会、カシマフェア（物産展、模擬店等）、フリーマーケットなど家族で楽しめるイベントで会場は大いに賑わいました。て～ら祭は 11 月 22、23 の両日、潮騒が講演会の会場や自助グループ活動に利用している市まちづくり市民センターで開かれ、エイサー（初日）と鹿島灘太鼓（最終日）を演舞してイベントを大いに盛り上げました。祭りは、同センターに集う人たち（＝地元では「て～ら」と言います）による市民活動団体の活動展示やステージ発表、模擬店があり、潮騒では最も力を入れている外部イベントです。

鹿嶋まつりでは、地元への日頃の感謝の気持ちを込めて焼きそば 1 パックを 100 円の破格値で販売し、長い列ができるほどの人気でした。潮騒 JTC のオリジナル焼きそばで、発案者の名前を採り「あーちゃん焼きそば」と名付けています。この日は、以前調理師として働いた経験のある入寮者らが慣れた様子で焼きそば調理し、プロの技を駆使した調理の手際の良さを披露しました。また、12月７日に開催した潮騒JTC９周年フォーラムのチラシを来場者に配り、PR に努めました。

一方、て～ら祭では潮騒農場で収穫した珍しい青パパイヤが昨年に続いて販売されたほか、ミズナ、ダイコン、サツマイモなど野菜類も格安で販売され人気を呼びました。ここでも地元への恩返しの意味を込め、鹿嶋まつりと同じく潮騒「あーちゃん焼きそば」が 100 円で販売され、２日間で合計1600食が提供されました。室内展示では潮騒農業などの風景写真などを集めたパネル展示で依存症者の回復活動について、視覚的に理解を深めてもらいました。また前年に好評を得た鹿嶋琉球太鼓の演舞に加え、2日目（最終日）には鹿島灘太鼓と鹿嶋琉球太鼓の合同演舞があり、まつりイベントの締め括りを大いに盛り上げました。お陰さまで 9 周年フォーラムに向け弾みが付きました。

潮騒のテント前ではエイサー隊も参加して鹿嶋まつりを盛り上げ、9 周年フォーラムの PR に努めました

今年も潮騒のオリジナル「あーちゃん焼きそば」が人気でした

て～ら祭には女性メンバーも加わり、焼きそば作りなどを下支えしました

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

受刑者からの手紙

受刑者の手紙には例外なく自分が犯した罪に対する自責の念と反省の弁が綴られています。文章のうまい下手は別にして、それらの言葉に嘘や虚飾はありません。すべて等身大の自分の本心、本当の言葉です。でも、刑期を終えて一歩塀の外に出ると、その言葉は急速にリアリティーを失うようです。ほどなくスリップの誘惑に負けてしまいます。依存症という怖い病気がそうさせるのです。でも、一部の受刑者は言葉に助けられ、見事に病気を克服していきます。その違いはよく分かりません。でも、受刑者にとって言葉は巷にいるよりも、遥かに重い意味を持っていることは確かです。（市）

未知の場所で新しく人生をやり直せたら素晴らしい

初めてお手紙差し上げます。私は今回、心から覚醒剤を止めたいと真剣に考えています。過去の私は、一回目執行猶予で、使用半年後に捕まり懲役に７年、その後二回の懲役は覚醒剤事犯では無いのですが、社会に居る時は何時でも手に入る環境にいたために手を出しては生活に困り、使ったり止めたりの繰り返しでした。今回も出所後４カ月で捕まり、全てを失ってしまいました。現在一番キツイ懲役生活を送るに至りまして、自分自身が本当に嫌になった次第であります。残り刑期が２年になり、１年半位を今回過ごした訳ですが、覚醒剤を止めるに至り、強い不安を感じました。というのも真剣に止めようと考えれば考える程に、誰かの手を借りてでも最期のチャンスなのでは無いか、との心境に至ったのです。それで栗原先生の所にお世話になり、確実に一歩一歩まともな生活を取り戻したいと考えるようになりました。茨城県には全く縁がなく地理も知識も無いし、知り合いも居ないので、未知の場所で心機一転、新しく人生をやり直せたら素晴らしいと思いました。それに私は人の世話を焼いたりするのが好きな人間であります。私自身が覚醒剤から立ち直る事は勿論でありますが、先生の施設で他の者の薬物更生に携わる役に立てれば、一生の使命を見つけられるのではないかと思いました。こんな私でありますが、引き受けて頂けないでしょうか。先生や施設側の都合や状況等もある事ですので、まずは一報頂けるようお願い致します。

（東京都　S・Y）

私の様な人間の身元引き受けは可能でしょうか？

前略 私は現在 N 刑務所に薬物使用で服役しております SO と申します。同囚の紹介でこの度手紙を書かせて頂きました。私は残刑２年６カ月位あるのですが、情けない事に身元引き受けをしてくれる人がおりません。同囚から「一度潮騒ジョブトレの施設長に手紙を書いてはどうか？」と言われ、この手紙となりました。潮騒ジョブトレでは私の様な人間の身元引き受けは可能でしょうか。私自身、大阪の人間なのですが、出所後は知らない土地で一からやり直したく思っております。以前は東京で10 年位働いておりました。もし潮騒ジョブトレ以外に、私の様な人間の身元引き受けをして下さる施設があれば教えて下さい。藁をもつかむ気持ちでこの手紙を書かせて頂いております。突然の手紙で申し訳なく思っておりますが、何卒一度御意見を聞かせて頂けませんでしょうか。よろしく御願い致します。

（愛知県　S・O）

塀の中で迎えた突然の母の死に気落ちしたが…

先日は手紙の方ありがとうございました。色々とお忙しい中で手紙を書いていただき、とても感謝しております。塀の中で迎えた突然の母の死に、私自身かなり気落ちしていたので、栗原さんからの手紙でとても励まされました。とても悔しいことですが、何とか残りの人生を生き抜いて行かねばなりませんね。このツライ想いを耐え抜いて、これからのことをしっかりと考え直そうと思います。今まで繰り返し使ってきてしまった薬物に対する己の心の弱さを認め、受け入れ、薬に手を出さない日を一日一日と積み重ねて行きたいです。今のこの強い気持ちを忘れない様に生きて行きたいです。とりあえず今は目の前のことを全力で頑張って、早く社会に戻れればと願い生活して行こうと思います。これからも色々と相談に乗っていただいたりすることもあるかと思いますが、今後とも何卒よろしくお願い致します。

（北海道　S・T）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

昨年のクリスマス会を思い出しています

おぼえていますか？ ユウジです。あの“タイコ”をやっていた…！ その節は本当にお世話になりました。未だに何もお返し出来ず本当に悔しい日々を送っています。東京へ戻ってきて早10カ月、M刑務所を出所して1年がたちました。それでこうしてペンを執った次第です。皆さんも元気にしていますか？ マコトさん、ヒトシさん、カイジさん、キクさん、あーちゃん、ナカさん… そして太鼓メンバー、他にも色んな人々にお世話になり、今こうして生活する事ができています。感謝しています。今年もあとわずかですが、潮騒での昨年のクリスマス会を思い出しています。今は私も苦しい毎日が続いていますが、なんとか乗り越えて頑張っていきたいと思います。スタッフの皆さんに宜しくお伝え下さい。ありがとうございました。

（東京都　I・Y）

市役所の前で定食屋さんを始めたのですね

ハガキと潮騒通信が届きました。ありがとうございます。自分がミーティングをしていた時に一緒に話していた、ナベさんやガクさんの顔を見て、その元気な様子に安心しました。それと、市役所の前で定食屋さんを始めたのですね。その横は確かインドカレーの店があるところですね。インドカレーの店はよく食べに行っていたので、店長さんは良く知っていますよ。その上（2階）にはレストランがありますね。栗原さんから潮騒通信を送ってもらっていると、鹿嶋の事やその他の事がわかるのですごく助かっています。それに、皆んなの顔が見られるので自分も早く帰ろうと思います。

（福島県　A・M）

回復の祭典パレードの誇らしい姿に胸を熱くした

いつも潮騒通信「どっこい生きています」を楽しく読ませて貰っております。“潮騒ジョブトレ”はマスコミによく取り上げられていると知り、ちょっと驚いております。これもきっと栗原先生はじめ関係者の方々の地道な努力が一般の人達に少しずつ認められている結果だと思います。でも、世間の目は温かくもあり、また冷たくもありますので、これからがきっと大変なのだと思います。本来なら（失礼ですが）、先生は年齢的にのんびり暮らしておられる事が普通だと思いますが、潮騒通信の行事予定を見ましても毎日のように行事日程があり、本当に大変だと思います。どうかお体を御自愛くださいますように願っております。これは特に懲役に来ている皆さんが、共通して真剣に思っている事だと思います。9月の「回復の祭典」のパレード、“潮騒ジョブトレ”の皆さんが笑顔で誇らしげに行進している姿を見まして、私も胸を熱くいたしました。そうした折、先日潮騒通信を読んでおりますと、私が先生に宛てた手紙が「受刑者からの手紙」の場所に出ておりました。本当にありがとうございました。うれしいやら恥ずかしいやら、ひとりで赤面しておりました。

（愛知県　S・O）

通信に載ってくる顔ぶれが変わってきている

先日記した手紙に運動会の事を書いたと思いますが、私達の工場はあえなく一回戦で敗退する事と相成りました。でも皆が一致団結し練習や試合に臨む事が出来たのは、大事な事だったと思っています。次はバレーボール大会が控えています。工場のメンバーも変わる事無く、また挑戦できる事を願ってます。出所していく人達は別として…。施設（潮騒JTC）の方でも入所者の人数が増えたのか、メンバーの入れ替わりが激しいのか、通信に載ってくる顔ぶれが少しずつ変わってきている様な気もしますが、そう思っているのは私だけでしょうか？ 団体生活だけに色々あって当たり前でしょうけど、管理する施設の方々の日頃の苦労が目に浮かびます。偉そうな事は言えませんが、運営の方も頑張って下さい。私も担当職員に迷惑を掛ける事無く、残りの受刑生活を過ごして行き、一日でも早く潮騒に辿り着ける様に頑張ります。その時が来たら何卒、宜しくお願い致します。

（北海道　S・T）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

裁判で自助活動を通して薬を断つ努力を述べた

初めてお便りさせて頂きます。知人より潮騒ジョブトレーニングセンターの存在を聞き、失礼ながらお世話になれたらと想い抱き、ペンを執らせてもらいました。私は現在、覚醒剤取締法違反（使用）で2年6カ月の刑を刑務所において執行されています。残刑1年7カ月近く、引受人も未定のままですが、でも無事故で真面目に生活しているつもりです。私は現在54才、出身は東京の三多摩で18才の長男がおりますが、隣県の元妻の方に引き取られています。地元で生活していた頃C型肝炎で治療のために生活保護を受けていました。今回裁判でも申したのですが、自分は薬物依存症であること、自分一人で止める覚悟をするより、自助活動を通して薬を断つ努力が必要であることなどを述べました。ダルクやNAとかの存在も知っていましたが、これまで一度も利用した事はありませんでした。もう覚醒剤を止めたい！ という意思は本気なので、今後の私の人生を、潮騒ジョブトレーニングセンターを通して歩んでは行けないものでしょうか。ぜひ、よろしくお願い致します。

（北海道　K・Y）

テイさんに差し入れてもらった品の味は忘れられない

前略。8月中には3通手紙を頂き有難うございます。社会とのつながりは施設長とキクさんとの手紙が主で、キクさんは毎回返事をくれるのでとても楽しみにしていますし、感謝しています。前回の手紙はテイさんも読んでくれたのでしょうか、字体でそう思いました。テイさんには拘置所でチョコパイと大福を差し入れてもらい、ありがたい思いをしました。ここでの生活でも食べることにおいては甘い物ができるときが楽しみです。夕食の時、一週間の内4回パン食になるのですが、最近たまに出る汁粉なども楽しみです。ですからテイさんに差し入れてもらった品の味は忘れられません。

（東京都　H・N）

栗原さんからの手紙に大きな力の導きを感じた

私は、この度の逮捕ですべてを失いました。もう誰からも相手にされず、愛想を尽かされました。この15年、ほとんどシャバに居られませんでした。出所しては逆戻りの繰り返し。止めたいのに止められないジレンマの闘いに疲れ、もはや精も根も尽き果てました。それでも私の中には「この薬物まみれのまま、墓場にだけは行きたくない」との思いだけが、小さくたった1つ残っていました。独居の中で、拘置所に備え付けの薬物書籍を貪るように読みました。「俺よりもひどいのに回復したんだ。」ダルクの皆さんの告白に励まされました。そして、私に残された唯一の道として「ダルクに行きたい。そこで止めるんだ」と覚悟したのですが、さて、どうやってお願いし、どこのダルクに行けば…。そんな時に頂いた手紙ですから、大きな力（信仰のある人ならば、それを神と呼ぶのでしょうが）の導きを感じたのです。本当に感謝です。有難うございます。

（東京都　N・S）

面会での話でまだまだ私でもやり直せると思えた

先日は面会に来て頂き、誠に有難うございます。お忙しい中、嬉しい限りです。色々と話をさせて頂き、少し考え方も変わりました。まだまだ私でもやり直せると思えました。懲役ですから、嫌なことや辛いこと等ありますが、負けずに頑張ろうと思います。潮騒ジョブの方へ行くことも考えておりますが、仕事もしたいなと思っていて悩んでおります。母親も年ですし少しでも安心させてあげたいのです。ですので、少し考えさせて下さい。栗原さんは60歳からやり直されたと言っておりましたが、やり直すのに歳は関係ないのですね。その事を聞いて、私も少し安心致しました。私も社会に戻るころは36歳になってますが、やり直せるよう努力してみます。

（群馬県　U・T）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

11月のお題　**初冬**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.13

センター長　栗原 豊

潮騒が鹿嶋市役所前のアパートから、市郊外の農村地帯にあるクリニック跡建物（現在は主に薬物依存症者のナイトケア施設として利用）に移り、次第に首都圏の福祉窓口などを通じてアルコール依存症の寮生が増えるに従い、そうした仲間たちを中心に、私は機会を見つけては健康状態を尋ねながら「どうだ、一緒にやらないか」と声掛けして俳句づくりを推奨するようになった。施設名からダルクを外して「潮騒ジョブトレーニングセンター」としてリニューアル化を図り、依存症のリハビリ施設ながらも職業訓練と就労支援の施設として特徴を出す方向となったことで、私の中にも大きな意識変化があった。

以前にも述べたように、アルコール依存症の彼らは一般的に依存症を発症するのが4、50代なので、それまで社会である程度働いてきた経験があった。いわば社会で生きるための基礎教養を身に着けており、社会常識もある。程度の差はあっても十分に俳句づくりに耐えられる知識と能力を持ち合わせていた。だから私は、何かきっかけがあれば、あるいは俳句づくりの環境を整えれば、潮騒の独自活動としてプログラムに組み込めるという確信があった。もちろん薬物依存症の寮生だって俳句づくりはそれなりに意味を持つ。

中学生ぐらいからシンナーや大麻、市販薬、その後に覚醒剤へと移行してきた依存歴の長い人たちは物事に対する集中力や持続力に乏しく、なかなか回復に時間が掛かる。これに対し、主に覚醒剤に依存してきた人たちは比較的壊れ方が少ないように思えた。私自身の例を出すまでもなく、刑務所を何度も往復してきた中高年のヤク中受刑者の中には獄中で俳句に触れた人も多く、「打てば響くのでは…」との思いが強くあった。実際、受刑中のヤク中受刑者の中には、私宛ての手紙の中に立派な俳句作品をしたためてくるケースがあった。俳句や短歌など短詩型文学の力をそこに見ることができた。

（次号につづく）

特選句

ふて寝する　初冬の朝　犬が呼ぶ

カヤ

初冬の頃には朝が冷え込み寒さを感じもう少し布団に居たい思いもあるが、それよりも何か気まずい事があって寝たふりに布団にもぐる。その主人を犬が吠えて呼ぶのは如何にも俳諧の少し哀れも込めた面白い句です。

特選句

遙まで　凛と初冬の　鹿島灘

鬼

鹿島灘は波崎から大洗までの海岸で以前は白砂松林が約八十キロも続いていた。鹿島開発で分断されたがまだ多く残っています。波崎、下津、大竹海岸の海水浴も終り初冬の頃には遙まで青々とした何も無い沖が見える。凛と表現したところに初冬の大景の句です。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

今月の秀逸句

秀逸句

今宵より　冷やから燗に　変りけり

ヒロ

俳句では冷酒は夏、燗酒は冬を意味しますので、この詠は秋や冬になった句になります。原句は少し整理しましたがこれで充分に季節の変りが判り、今年も冬を迎える思いに晩酌の思いも込められています。

秀逸句

冬帽に　似たる姿や　遠筑波

ユタカ

筑波山は古来から歌会の山としても名高く今でも春や秋の行楽の人も多い。頂上は岩も多いが中腹より下は緑の山で夏の青葉、秋の紅葉も美しい。それでも冬を迎えると枯れ山となり遠くからは冬の帽子の様に見える大景の句です。

秀逸句

初冬の　思いに掛け布　重ねをり

カツミ

初冬は十一月十日頃だが、その頃は晴天の日も多いが朝夕は急に寒さを感じる、夜に寝る時間だと余計にそう思う。今宵は毛布でも重ねようかと思う、日常の実感のある句です。

秀逸句

初冬の　中山峠　蒸かし藷

長吉

中山峠は、北海道、青森、岩手、群馬県などにあるが、この峠は何処のだろうか。中でも北海道の支笏洞爺国立公園内の中山峠は有名。昔は八キロの間に百三十箇所近くの曲りがあり、難所で事故も多くあったと云う。他の峠であっても休憩所に景色を見ながら蒸かし藷を食べるのは心が安らぐ句です。

秀逸句

年重ね　寒さ身にしむ　初冬かな

あべ

歳を取ると何事にも身にしむ思いがしますが、ことに寒さは体の動きも鈍くなり身にしむし、実年令より老いた思いにもなります、古来から若さも宝の一つと云いますが、その思いを深くするのも冬かも知れません。俳諧の哀れも込めた句です。

選者吟（おらげのかまど開店祝い）

石見

煮て焼きておらげの竈秋の味

佳作

カート

焚くほどに風の寄せくる落葉かな

グッチ

初冬やお茶に身体のポカポカと

コバ

初冬の甘酒恋し季節かな

トム

初冬の訪れ思ふ今朝の靄

アベ

品のなき川柳詠みて冬迎ふ

ユタカ

初冬や前歯に沁みる風旨し

長吉

新婚の向い合ひたる炬燵かな

12月のお題　**落葉**

わが俳句人生の歩み・No.14

センター長　栗原 豊

潮騒通信の本号で、スタッフのリョウが9周年フォーラムの感想として、潮騒でエイサーと出合い、次第にその魅力に引かれ、今ではすっかりめり込んでいると打ち明けている。その結果、彼自身が生涯付き合っていかなければならないパチンコやスロットなどへの病的な依存（ギャンブル依存症）がストップしていることを正直に記しています。彼にとっては、フォーラムで演舞したエイサーがギャンブルに替わる健全な依存対象となっているようだ。また、この12月で退寮するスタッフのあやめも和太鼓に出合い、良き指導者に巡り会えたこと、さらに施設での12ステップによって、彼女の課題である薬物依存が止まり、回復と成長の歩みを手にしていることを明かしている（＝8、9ページ）。こうした2人のメッセージは、先行く仲間として、あるいは潮騒の主宰者として、この上ない喜びである。太鼓であれ、俳句であれ、依存症の当事者が健全な形でのめり込むことのできる新たな依存対象を見つけられればしめたもの、といえよう。

前回の話でも触れたように、私は長い受刑生活の中で俳句と出合い、これが自分の新たな生きがいにつながる依存対象なったことで救われた。刑務所では出所後の社会復帰に備えて、厳しい規律の下で各種職業訓練や技能習得に励んだ。そうした作業を通してさまざまな公的資格を得たが、実際にはほとんど役に立っていない。苦労して取得した各種資格も、前科のある出所者には厳しい雇用環境が厚い壁として立ちはだかり、希望する職業にありつくことができず、ほとんど生かせないのが現実である。既に世の中は技術革が花盛りで次々に新たな技能や資格が求められ、アナログ的な資格や肩書きだけでは食べてはいけなくなっている。

そんな中で俳句は「飯を食う」ことには直接に役立たないとしても、ヤク中やアル中の精神的な飢餓感を埋めてくれる不思議な力がある。大袈裟かもしれないが、私には社会的な地位や身分、カネや資格に替わる大事な生きる手段につながる、内面のエネルギーを引き出してくれるものだ。ギスギスしがちな人間関係の円滑化にもつながり、薬物やアルコールで失った人間的な感情を取り戻させてくれる。難しい理論や決まり事、技術などは分からなくても、俳句は季語を入れた五・七・五の短い詩だけに、初心者でも簡単に一句ひねることができる。季節の移ろいや草花、目の前に広がる景色、何気ない日常の風景などを素材に自由に創作イメージを広げられる。塀の中の囚われの身である受刑者たちの中には、極限的な行動の制約とは裏腹に縛ることのできない心を自由に飛翔させて、社会の中では生まれにくい秀作をつぎつぎにものにする者が現れた。私は受刑者の手紙に添えられた俳句が楽しみになっていた。そこには過去の自分がリアルに映し出されていたからだった。（次号につづく）

風の曲　皆でワルツの　落葉かな

特選句

鬼

秋も深まり冬を迎えると紅葉も散り始めるが、風の音を曲にしてワルツを踊る様に散り始める。その空を眺めての詠で如何にもメルヘンで女性らしい句です。「風の曲みなでワルツの散り紅葉」でも「紅葉」の季語には彩りも見えて良いかも知れません。

風に舞ふ　落葉の中の　待ち合せ

特選句

ヒロ

何処かの公園かも。落葉には少しは淋しい感じもありますが、まだ紅葉の残るのが散るのは初冬の風情で大人の待ち合せに相応しい思いがあります。シャンソンに「枯葉散る」がありますが、それらを思うロマンの句でもあります。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

しおさい俳壇

今月の秀逸句

北国の　色鮮やかに　紅葉かな

秀逸句

オノ

紅葉は黄葉とも書き楓、楢、銀杏、七竈など木によって色は異なるが、台風など少ない年の北国や高山の紅葉は鮮明で美しい。例えば、「日光の色鮮やかに紅葉かな」にすれば誰にも解る景色の見える句になります。

早朝の　散歩に匂ふ　落葉焚き

秀逸句

リョウ

最近では焚火もあまり見掛けなくなりましたが、それでもこの鹿島や神栖では時々見ます。童謡にも落葉焚きがありますが、私の子供の頃の里では蕷（いも）を焼いたりしたのを思い出します。「匂う」に実感の籠る句です。

落葉道　行くや故郷　思ひけり

秀逸句

カヤ

原句は少し変えましたが、これで明確に故郷を思う句になります。何処かの落葉道を散歩したり公園の落葉を眺めると、誰も里を懐かしく思いますし少しのロマンも感じます。俳句は一つの事を明確に表現する事が大事です。

落葉舞ふ　鹿島の歩道　寒々と

秀逸句

レイコ

落葉の舞う頃は木枯とも云い、風が木の葉を落し枯木にするのでこの名があります。木枯一号などとも云いますが、いよいよ冬を思う風でもあり寒さを思う句です。「鹿島」を入れて実景の句になります、俳句の大事な要素でもあります。

落葉焚き　囲む仲間の　背を見つむ

秀逸句

カート

焚火などを囲むと風で煙には背をむけることが多い。すると風上人は風下の人の背を見ることになる。人の背と云うのも良く見ると夫々に趣きがある。男、女、年代によりその人の生いきて来た道や背負った人生が見える思いもあり、しみじみとした句です。

佳作

長吉
山国の大寺の庭落葉池

コバ
落葉舞ひ手足の冷ゆる日暮かな

アベ
手をふって行ける親子に北風の吹く

鬼
銀杏散る蝶のごとく車追ふ

あやめ
落葉道けふの色なる小道かな

チーナ
山風が猛威をふるい枯葉散る

シマ
きりが無く落葉掃く人溜息し

はな
落葉舞ふ風の梢の何処へゆく

イルカ
紅葉散る色美しく今朝の道

ユタカ
箱根山落葉掃く人運ぶ人

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～

「キク回復記」 No.1

私は今年で潮騒 JTC を含むダルク生活が13年になります。詳しく言うと、その内の7年が潮騒での生活です。実は、栗原センター長とはもう12年の付き合いになります。同じ釜の飯を食った回復仲間として、とても気心の知れた関係にあります。なので、センター長が何も言われなくても、何をつたえたいのか、どうしようとしているのかも分かります。何しろセンター長がダルクにつながって間もない時期からの長い付き合いです。センター長が本格的に回復の歩みをスタートさせた隣接市にあるダルクでは、同じスタッフとして毎日顔を突き合わせていた間柄です。ただ、センター長が順調にクリーン期間を延ばしていったのに比べ、私は病気がとても深くスリップの繰り返しでした。私は使う方、センター長は使わない方にと力を入れた、対極的な人生でした。センター長が潮騒 JTC の前身施設を立ち上げた頃、私はクスリ（覚醒剤）が止まらず、どうしょうかと迷っていました。「キクどうだ、こっちに来て一緒に止めていかないか」と声を掛けて貰い、センター長が立ち上げた新しい施設に移ったのです。

でも、私は施設を移ってもクスリはなかなか止められず、夜になるとスタッフを脅かしてクスリを買いに車を走らせることの繰り返しでした。その度にセンター長やルミさんに見つかるのですが、センター長からは「もう止めておけ！」と叱られ、ルミさんからは、「お帰り！」と優しい言葉を掛けられました。厄介なことに自分は、クスリを使うと必ずナイフを持って歩きます。施設の中でも同じで、そんな私を見て仲間が怖くなり、私を施設から出すか、それでなければ自分たちが出る、とセンター長が迫られた時期もありました。そんな事があっても私はクスリとアルコールを止められず、施設に逆らい続けてセンター長ともケンカもしました。でもセンター長は、私を黙って迎え入れてくれました。その恩義に応えようと、毎日が必死でした。“ダメな施設”に“ダメな回復者”がいることは、もしかして仲間たちには救いなのかもしれません。

振り返ると別れた女房とは15年、両親とも15年で死に別れ、センター長とは12年の付き合い…、まるで牛歩のような回復人生に時折、自分で自分が嫌になります。スリップでは私に勝てる人はいませんね。施設の車も２台使い物にならなくしています。クスリを使い、酒を飲んでは潰れる未熟な回復者なのに、今こうして施設で曲がりなりにも命を長らえていられるのはセンター長のお陰、そしてルミさんの力があったからだと思います。ルミさんともいろいろありました。やはり知り合いだしてから 12 年ですからね。次号には少しルミさんの事も書かせて貰います。ところで今回のクリーンは 13 カ月です。13 年で13 か月ですから、1割の回復率ですね。とにかく色々とありました。それでは次号に。

11・12 月のバースデイ

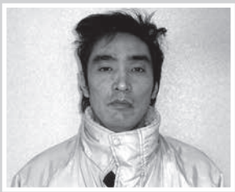
ヤマ
今年もクリーンで！

はんぺん
秋葉原に行きたい

コウジ
52歳の誕生日はよくしたいです

アベ
元気でやってます

クニマツ
早く社会で仕事したいです



シモ
アルコールを使わない生活を続けたい

ヨウイチ
運転の仕事がしたい

カート
今年も一年よい年で終わりました

とり
アルコールを使わない生活を続けたい

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年12月6日発行　SSKU増刊通巻、第4986号

12月の行事予定

5日	新宿とまりぎアルコール問題相談受託業務
7日	潮騒JTC9周年フォーラム
14日	秋元病院メッセージ
18日	しおさい映画会
20日	秋元病院メッセージ
20・21日	JAしおさい鹿嶋農産物直売所感謝祭
24日	しおさいクリスマス会
26日	美空保育園もちつきイベント 潮騒ファイザープロフェクト 就労支援実践講座（最終回）
27日	年末恒例もちつきイベント
30日	デイケア＆ナイトケア大掃除
31日～1月3日	横浜・渋谷ダルク年越しプログラム

1月の行事予定

4日	2015（平成 27）年頭潮騒 JTC 新年会
5日	たかおざきディサービス・エイサー慰問
8日	しおさい俳句会１月例会
11日	秋元病院メッセージ
17日	秋元病院メッセージ

編集後記

このところ編集作業がずれ込み、発行が翌月にかかってしまうケースが続いていました。毎月、潮騒通信が手元に届くのを楽しみに待っておられる皆様には、大変申し訳ありません。軌道修正できないまま、ついに今回は11月号と12月号を合併する形での発行となってしまいました。いくつかの秋季イベントが重なり、スタッフを主体に構成するエイサー隊の出番が増え、新たに和太鼓に取り組むスタッフが多くなり、取材、カメラ撮影、原稿作成の時間が確保しにくい状況でした。支援の編集担当もクリエイターも個別の仕事を抱えていることから当初スケジュールを消化できませんでした。言い訳するよりも、より質の高い誌面作りに励むことで埋め合わせていきます。読者の皆様、よい新年をお迎え下さい。（市）

献金・献品を頂いた方（12 月15日現在）

- 渡辺 洋子 様
- 坂西 ミヤ 様
- 富井 建夫 様
- 千葉菜の花家族会 様
- 医療法人梨香会 秋元病院 様
- イルポートこぼり 様
- 鹿島灘太鼓 様
- 横浜ダルク 様
- 川崎ダルク 様
- 相模原ダルク 様
- リカバリーファーム 様
- マスコ測量 様
- 潮騒家族会 様
- 高田 武義 様
- 小宮 勤 様
- 高橋 ふく子 様
- 杉本 勇蔵 様
- 小林 久祐 様
- 山田 武郎 様
- 内堀 高良 様
- 石井 照明 様
- 上田 靖仁 様
- 小橋 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。
※その他匿名の皆様からも献品･献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封　させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2014年 11･12 月合併号

Contents

P2 潮騒食堂でアディクトの就労支援に取り組みます。
P3 潮騒食堂「おらげのかまど」OPEN!
4 かまどプレオープンイベント開く
5 潮騒就労支援飲食店事業「おらげのかまど」事業概要
P6 潮騒JTC 9周年フォーラム
7 栗原豊センター長フォーラム謝辞
8 仲間の感想文 リョウ・あやめ
9 マーシー（田代まさし）さんがサプライズメッセージ
P10 秋季イベントで 100 円焼きそばを販売し地元に恩返し！
P11 受刑者からの手紙
P14 しおさい俳壇　11 月「初冬」
P16 しおさい俳壇　12 月「落葉」
P18 どっこい私も生きてます！ ～我が回復記～「キク回復記」

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56 号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ http://shiosaidarc.com/